

「しんかい6500」25周年記念潜航を利用した広報企画について

○吉澤理・長谷部喜八・荻田善之・廣瀬重之（海洋研究開発機構）

有人潜水調査船「しんかい6500」就航25年を記念して、2015年4月18日に中部沖縄トラフの熱水噴出域を中心とする海域での潜航調査を実施した。本潜航の計画においては、大深度有人潜水調査船の存在とその研究活動を広く国民に伝えるために、ターゲットをテレビ番組などの映像メディアに定めて企画公募を実施した。各局から複数の企画応募があり、審査委員会での検討により、過去に例のない新たな展開として、株式会社WOWOWと株式会社ドリマックス・テレビジョンから提案された「しんかい6500」を舞台にした小説『海に降る』（朱野帰子著、幻冬舎）の連続ドラマ化への協力が採択された。

航海には、支援母船「よこすか」に撮影クルーが乗船し、潜水調査船の調査行動を詳細に撮影した。また、ドラマ監督を務めた山本剛義氏が自ら「しんかい6500」に乗船し、コクピットでの操縦や深海の撮影を行った。撮影映像は、ドラマ作品で放映されるとともに、演出やキャスト（主演 有村架純、井上芳雄、筒井道隆、時任三郎、遠藤憲一 他）への演技にも生かされた。現実の深海調査とドラマ作品との日本初の連携は、当初ターゲットに定めたマスメディアでも話題となり、WOWOWと協力開催した記者会見や各種パブリシティなどを通じて、半年間にわたって1,000件を超える媒体への露出を記録した。放送局によると6週にわたって放送されたドラマ作品も視聴者から好評であった。

また、航海では船上の様子を通信衛星を用いてインターネット中継し、JAMSTEC 横浜研究所休日開館と連携したパブリックビューイング（参加者数のべ105名）、及び株式会社ダウンゴの協力を得てニコニコ生放送で配信を行った。通信環境の制限や音響画像伝送装置の不調のため高画質な映像を配信できなかったが、研究現場と繋がっている臨場感もあり、ニコニコ生放送の視聴者数は14万4,203人を記録した。また視聴者アンケート調査では98.1%が「よかった」というポジティブな回答を示した。

今回実施した広報企画の効果については、別途に調査予定の認知度測定などとも照合し、今後の効果的な広報業務の企画立案に生かしていく。

本行動においては、中村船長他「よこすか」乗組員、櫻井司令他「しんかい6500」運航チームの皆様、及び株式会社WOWOW岡野真紀子氏、株式会社ドリマックス・テレビジョン浅野敦也氏、株式会社ダウンゴ秋本直樹氏、宇賀神隆志氏に多大なご協力をいただいた。また、潜航計画の策定や中継において、高井研氏、宮崎淳一氏、和辻智郎氏及び鈴木晋一氏にご協力をいただいた。皆様のご尽力に心より感謝を申し上げます。



ドラマ「海に降る」撮影風景



ライブ中継の様子（JAMSTEC/niconico）